第6学年「家庭」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

成果 ○ 調理や裁縫に高い関心を持ち、学校では実習ができない中でも、家庭できちんと課題に取り組んでいる。

課題 ▼ 大きさの見立てや作業の見通しが甘く、出来上がりがイメージと違うことが多い。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ ゴールイメージを持ち、そのために必要な過程を導き出す力。
- ◇ 裁縫や調理における具体的な作業技能。

具体的な改善策

- ゴールイメージを図案化するだけでなく、大きさや必要な材料など、より具体的な計画を立てさせる。
- 手縫いやミシン縫い、調理における様々な技能について理解を深めさせ、実践を通して技能を高めさせる。

達成目標

- 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。